

令和3年度

事業報告書

公益財団法人広島平和文化センター

目 次

事業報告書

1	設立目的及び概況	1
2	役員等の状況	2
3	理事会等の開催	5
4	定款の変更	7
5	職員の状況	8
6	事業の実施状況等	
	Ⅰ 事業の実施状況	
	(1) 公益目的事業1(平和推進事業)	
	ア 被爆体験継承普及事業	9
	イ 平和意識高揚事業	17
	ウ 国際平和推進事業	20
	エ 施設の管理運営	25
	(2) 公益目的事業2(国際交流・協力事業)	
	ア 国際交流・協力推進事業	29
	イ 国際化推進事業	32
	ウ ひろしま奨学金支給事業	36
	(3) 収益事業等	
	ア 広島平和記念資料館での収益事業	36
	イ 広島国際会議場での収益事業	37
	ウ 広島国際会議場の管理運営	37
	Ⅱ 無償使用貸借資産	38
	Ⅲ 事業報告の附属明細書	38

事 業 報 告 書

事業報告書

令和3年度公益財団法人広島平和文化センター事業報告書
(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

1 設立目的及び概況

(1) 設立目的

広島の被爆体験を根底に据え、その継承を図るとともに、国内外の平和研究機関、関係団体等と連携し、全人類的な視野に立って、平和思想の普及と国際相互理解・協力の増進を図り、もって世界平和の推進と人類の福祉の増進に寄与することを目的とする。

(2) 概況

ア 設立年月日

昭和51年4月1日

イ 基本財産

設立当初の基本財産は1,000万円(全額広島市出資)であったが、その後13億3,166万6,833円を増額し、令和3年度末で1,367万7,545円処分した。現在の基本財産は13億2,798万9,288円(うち広島市出資11億9,281万1,498円)である。

ウ 実施事業

実施事業は、次のとおりである。

- (ア) 平和の推進及び国際交流・協力に関する調査研究
- (イ) 原爆被爆の実相、平和の推進及び国際交流・協力に関する国内外の資料・情報等の収集、整理及び活用
- (ウ) 平和の推進及び国際交流・協力に関する国際会議、講座、講演会、展示会等の開催
- (エ) 国内外の研究所、市民団体等との交流並びに平和の推進及び国際交流・協力活動に対する助成
- (オ) 平和の推進及び国際交流・協力に関する出版物の刊行及び頒布並

びに記念品の製作・販売

(カ) 平和の推進及び国際交流・協力に関する施設の管理の受託

(キ) その他公益財団法人広島平和文化センターの目的を達成するために必要な事業

2 役員等の状況

(1) 役員等の数

会 長	1 人
理 事 長	1 人
常務理事	2 人
理 事	2 0 人
監 事	2 人
評 議 員	1 5 人

(2) 理事・監事

ア 事業年度中の理事・監事の異動は、次のとおりである。

異 動 年 月 日	役 職	氏 名	異動内容
令和3年 4月 1日	常務理事	荒瀬 尚美	就任
〃	理 事	岡田 務	就任
〃	〃	高橋 克浩	就任
令和3年 6月 14日	〃	荒瀬 尚美	重任
〃	〃	伊木 剛二	重任
〃	〃	大芝 亮	重任
〃	〃	岡田 務	重任
〃	〃	小川 順子	重任
〃	〃	川野 徳幸	重任
〃	〃	神部 泰	重任
〃	〃	岸本 伸三	重任
〃	〃	北川 建次	重任
〃	〃	小泉 崇	重任
〃	〃	ピーター・ゴールズベリ	重任
〃	〃	柴田 幸子	重任
〃	〃	柴田 吉男	重任

異 動 年 月 日	役 職	氏 名	異 動 内 容
〃	〃	澁 谷 和 佳	重 任
〃	〃	高 橋 克 浩	重 任
〃	〃	田 代 聡	重 任
〃	〃	茶 幡 博 子	重 任
〃	〃	殿 納 隆 義	重 任
〃	〃	西 田 敏 啓	重 任
〃	〃	延 本 真 栄 子	重 任
〃	〃	松 井 一 實	重 任
〃	〃	宮 田 俊 範	重 任
〃	〃	頼 信 直 枝	重 任
〃	〃	渡 部 朋 子	重 任
令和 3 年 1 2 月 3 1 日	〃	澁 谷 和 佳	辞 任
令和 4 年 1 月 1 日	〃	坂 倉 敬 濟	就 任
令和 4 年 3 月 3 1 日	監 事	尾 木 朗	辞 任

イ 令和 4 年 3 月 3 1 日現在の理事・監事は、次のとおりである。

役 職	氏 名	就 任 年 月 日
会 長	松 井 一 實	平成 2 3 年 4 月 1 1 日
理 事 長	小 泉 崇	令和 元 年 6 月 1 4 日
常 務 理 事	柴 田 吉 男	令和 2 年 4 月 1 日
〃	荒 瀬 尚 美	令和 3 年 4 月 1 日
理 事	伊 木 剛 二	令和 元 年 1 2 月 1 日
〃	大 芝 亮	平成 3 1 年 4 月 1 日
〃	岡 田 務	令和 3 年 4 月 1 日
〃	小 川 順 子	平成 2 3 年 4 月 1 日
〃	川 野 徳 幸	平成 2 9 年 4 月 1 日
〃	神 部 泰	平成 2 8 年 1 2 月 2 6 日
〃	岸 本 伸 三	平成 2 3 年 4 月 1 日
〃	北 川 建 次	平成 2 3 年 4 月 1 日
〃	ピーター・コールス ^ハ ベリ	平成 2 3 年 4 月 1 日
〃	柴 田 幸 子	平成 2 3 年 4 月 1 日
〃	坂 倉 敬 濟	令和 4 年 1 月 1 日
〃	高 橋 克 浩	令和 3 年 4 月 1 日

役 職	氏 名	就 任 年 月 日
〃	田 代 聡	平成 3 1 年 4 月 1 日
〃	茶 幡 博 子	平成 2 3 年 4 月 1 日
〃	殿 納 隆 義	令和 2 年 4 月 1 日
〃	西 田 敏 啓	令和 2 年 4 月 1 日
〃	延 本 真 栄 子	平成 2 3 年 4 月 1 日
〃	宮 田 俊 範	令和 2 年 2 月 1 日
〃	頼 信 直 枝	令和 2 年 4 月 1 日
〃	渡 部 朋 子	平成 2 3 年 4 月 1 日
監 事	久 光 章	平成 3 0 年 4 月 1 日
〃	尾 木 朗	平成 3 0 年 6 月 2 7 日

(3) 評議員

ア 事業年度中の評議員の異動は、次のとおりである。

異 動 年 月 日	役 職	氏 名	異動内容
令和 3 年 6 月 3 0 日	評 議 員	堀 江 嘉 子	辞 任
令和 3 年 7 月 1 日	〃	松 井 浩 子	就 任
令和 3 年 1 0 月 2 4 日	〃	坪 井 直	辞 任
令和 3 年 1 1 月 1 日	〃	箕 牧 智 之	就 任
令和 3 年 1 2 月 3 1 日	〃	杉 川 綾	辞 任
令和 4 年 1 月 1 日	〃	大 野 貴 嗣	就 任
令和 4 年 2 月 2 8 日	〃	森 瀧 春 子	辞 任
令和 4 年 3 月 3 1 日	〃	三 上 貴 教	辞 任

イ 令和 4 年 3 月 3 1 日現在の評議員は次のとおりである。

役 職	氏 名	就 任 年 月 日
評 議 員	池 上 忍	平成 2 3 年 4 月 1 日
〃	植 野 実 智 成	令和 元 年 1 1 月 1 2 日
〃	大 野 貴 嗣	令和 4 年 1 月 1 日
〃	片 岡 勝 子	平成 2 3 年 4 月 1 日
〃	神 谷 研 二	令和 元 年 7 月 1 日
〃	栗 原 理	令和 2 年 6 月 2 3 日
〃	佐々木 博	令和 2 年 6 月 2 6 日
〃	多 田 チャントーン	平成 2 3 年 4 月 1 日

役 職	氏 名	就 任 年 月 日
〃	月 村 佳 子	平成 2 6 年 5 月 1 日
〃	丹 羽 太 貫	平成 2 7 年 7 月 1 日
〃	古 谷 章 子	平成 2 3 年 4 月 1 日
〃	松 井 浩 子	令和 3 年 7 月 1 日
〃	三 上 貴 教	平成 3 0 年 4 月 1 日
〃	箕 牧 智 之	令和 3 年 1 1 月 1 日
〃	若 林 真 一	平成 3 1 年 4 月 1 日

3 理事会等の開催

(1) 理事会

開催年月日	開催回数	付 議 事 項	審議結果
令和 3 年 4 月 1 日 (決議の省略)	第 1 回	1 常務理事の選定について (第 1 号議案)	選 定
令和 3 年 5 月 2 7 日 (決議の省略)	第 2 回	1 職員の職務に係る倫理の保持に関する状況及び職員の職務に係る倫理の保持に関して講じた施策に関する報告について (報告第 1 号) 2 令和 2 年度公益財団法人広島平和文化センター事業報告及び決算について (第 2 号議案)	終 了 承 認
令和 3 年 6 月 1 4 日 (決議の省略)	第 3 回	1 会長の選定について (第 3 号議案) 2 理事長の選定について (第 4 号議案) 3 常務理事の選定について (第 5 号・第 6 号議案)	選 定 選 定 選 定

開催年月日	開催回数	付 議 事 項	審議結果
令和3年 10月11日 (決議の省略)	第4回	1 公益財団法人広島平和文化センター評議員会の開催について (第7号議案) 2 公益財団法人広島平和文化センター令和3年度事業実施状況報告(4月～8月分)について (報告第2号)	原案可決 終 了
令和4年 3月30日	第5回	1 令和4年度公益財団法人広島平和文化センター事業計画及び収支予算について (第8号議案) 2 公益財団法人広島平和文化センター基本財産の一部処分について (第9号議案) 3 公益財団法人広島平和文化センター評議員会の開催について (第10号議案)	原案可決 原案可決 原案可決

(2) 評議員会

開催年月日	開催回数	付 議 事 項	審議結果
令和3年 4月1日 (決議の省略)	第1回	1 理事の選任について (第1号・第2号議案)	選 任
令和3年 6月14日 (決議の省略)	第2回	1 令和2年度公益財団法人広島平和文化センター事業報告について (報告第1号)	終 了

開催年月日	開催回数	付 議 事 項	審議結果
		2 令和2年度公益財団法人 広島平和文化センター決算に ついて (第3号議案) 3 評議員の選任について (第4号議案) 4 理事の選任について (第5号～第28号議案)	承認 選任 選任
令和3年 11月1日 (決議の省略)	第3回	1 評議員の選任について (第29号議案)	選任
令和3年 12月31日 (決議の省略)	第4回	1 評議員の選任について (第30号議案) 2 理事の選任について (第31号議案)	選任 選任
令和4年 3月30日	第5回	1 令和4年度公益財団法人 広島平和文化センター事業計 画及び収支予算について (第32号議案) 2 公益財団法人広島平和文化 センター基本財産の一部処分 について (第33号議案) 3 評議員の選任について (第34号議案)	承認 原案可決 選任

4 定款の変更

事業年度中の定款の変更はない。

5 職員の状況

令和4年3月31日現在の職員の状況は、次のとおりである。

(単位：人)

区 分	局 長 級	部 長 級	課 長 級	課 長 補 佐 級	係 長 級	主 事	非 常 勤	計
総 務 課		1		1	3	3	15	23
施 設 課				1	2	1		4
平和市民連帯課			1	1	1	1		4
平和首長会議運営課			1	1		8	2	12
国際交流・協力課		1		1	3	4	8	17
学 芸 課	1	1		1	1	8	8	20
啓 発 課		1		1	1	7	2	12
国際会議場	1			1	2	3	4	11
国立広島原爆死没者 追悼平和祈念館	1			1	1	6	7	16
計	3	4	2	9	14	41	46	119

(注) 局長級に平和記念資料館長、国際会議場館長及び国立広島原爆死没者追悼平和祈念館長を、部長級に総務部参事、国際交流・協力担当部長及び平和記念資料館副館長を、課長補佐級に主幹、国際会議場副館長及び国立広島原爆死没者追悼平和祈念館副館長を、係長級に主査、主任、主任学芸員及び国際会議場館長代理を、主事に学芸員をそれぞれ含む。

6 事業の実施状況等（決算額の一部は人件費を含む）

I 事業の実施状況

(1) 公益目的事業1（平和推進事業）

ア 被爆体験継承普及事業

(7) 修学旅行生への被爆体験講話等（決算額：711万1千円）

- a 被爆の実相を次の世代に正しく伝え、平和意識の高揚を図るため、修学旅行生を始めとする国内外からの来訪者などを対象に、学校等からの依頼を受けて、被爆体験証言者による被爆体験講話や原爆記録ビデオ等の上映を行った。また、新型コロナウイルス感染症拡大のため、ウェブ会議システムを利用した講話を実施した。

・被爆体験講話等実施件数

区 分	件 数	参 加 人 数
小 学 校	344 (302) 件	25,277 (22,747) 人
中 学 校	166 (157)	17,379 (16,605)
高等学校	54 (53)	5,960 (5,812)
そ の 他	69 (59)	2,839 (2,507)
計	633 (571)	51,455 (47,671)

※（）内は財団委嘱の講師による被爆体験講話で内数

※ 夏休み期間中の事前予約不要かつ無料での講話の開催については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりオンライン（YouTubeライブ配信）で開催

- b 被爆者の記憶に残る被爆当時の光景を後世に残すとともに、若い世代への被爆体験の継承を図るため、証言者と高校生が共同で「原爆の絵」を制作し、完成した作品を被爆体験講話等に活用することになっている。

- ・制作協力校：広島市立基町高等学校
- ・制作数：11作品（令和4年夏に完成予定）

(イ) ヒロシマ・ピース・ボランティア事業（決算額：173万2千円）

被爆体験継承の推進を図るため、広島平和記念資料館の展示や平和記念公園内の慰霊碑等のボランティアによる解説を行った。

- ・ボランティア登録者数：218人（令和4年3月31日現在）

・活動実績

① 館内移動展示解説：78団体（255人）

② 公園内移動解説：717団体（6,614人）

※ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、資料館臨時休館中は、いずれの活動も休止又は縮小

(ウ) 被爆者証言ビデオの制作（決算額：194万3千円）

被爆の実相を国内外の次の世代に継承するため、広島県内在住の被爆者の証言映像を記録し、保存するとともに、複製したDVD等の貸出しや館内及びインターネット上での公開を行った。

・オリジナル版DVD（1本に1名分。収録時間20～30分）

制作本数：6本（累計制作本数：1,131本）

・ダイジェスト版DVD（オリジナル版を10分程度に編集。1本に3～4名分。収録時間30～40分）

制作本数：2本（累計制作本数：170本）

(エ) 被爆体験証言者交流の集いの運営（決算額：0円）

被爆体験継承活動を行っている団体の活動に資するため、交流の集いを開催し、団体相互の情報交換等を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、実施を見送った。

(オ) 平和文化センターインターンシップ事業（決算額：1千円）

国内の学生を実習生として受け入れ、広島平和記念資料館等での就業体験を通して、被爆地ヒロシマについて理解を深めてもらった。

・受入人数：4人（大学生）

・受入期間：1日／人

(カ) ヒロシマ・ピースフォーラムの開催（決算額：59万円）

市民に、平和の原点としてのヒロシマを見つめ直し、原爆や平和について考え、どのように行動していけばよいかを探求する機会を提供するため、広島市立大学と連携し、連続講座を開催した。

・期 間：令和3年10月～12月（土曜日、全6回）

・場 所：広島平和記念資料館 ほか

- ・対象者：18歳以上で広島市内に在住又は通勤・通学している人
- ・受講者：65人（広島市立大学の学生19人を含む。）

(キ) 国内原爆写真展用資料の普及・活用（決算額：70万円）

被爆の実相を伝え、平和意識の高揚を図るため、原爆写真展を開催する国内の学校や各種平和団体、自治体等へ原爆写真ポスター・パネルの貸出しを行った。

貸出資料	点数
原爆写真ポスター	79点
原爆写真パネル	43
計	122

(ク) 中・高校生ピースクラブの開催（決算額：63万1千円）

中・高校生を対象に、平和の推進を目指して取り組む力を養い、人材の育成を図るため、被爆の実相等を学ぶ講座やワークショップなどの学習の場を提供した。

- ・期間：令和3年5月～令和4年3月（全9回）
- ・場所：広島平和記念資料館など
- ・内容：① 広島平和記念資料館の見学、平和記念公園内の碑めぐり
② 被爆体験講話及び被爆体験伝承講話の聴講
③ ヒロシマ青少年平和のつどいのオンライン開催
④ 県内研修（1泊2日）

- ・参加者：中学生・高校生（31人）

※ 公募したボランティア（18歳以上の7人）が、事業全般をサポートした。

(ケ) 平和学習講座（決算額：43万9千円）

被爆の実相や核兵器廃絶への取組などについての理解を深めるとともに、自ら平和活動に取り組む意識を醸成するため、講師を小・中・高等学校等に派遣し、平和学習を実施した。また、新型コロナウイルス感染症拡大のため、ウェブ会議システムを利用した講座を実施した。

- ・登録講師：9人（令和4年3月31日現在）

派遣先	回数
小・中・高等学校	52回
その他	18
計	70

(コ) 平和記念資料館平和学習ワークブック等の作成（決算額：265万3千円）

修学旅行生等が、広島平和記念資料館の見学を通して、より効果的に被爆の実相を学び、平和を目指す自主的な取組につなげることができるよう、また、広島市への修学旅行誘致及び資料館入館者増加策の一助として、「広島平和記念資料館平和学習ワークブック」、「広島平和記念資料館学習ハンドブック」、「平和記念公園めぐり」を作成し、配付した。

・作成部数：① ワークブック	小学生指導者用	8,000部
	中・高校生用	20,000部
	中・高校生指導者用	4,000部
② ハンドブック	小学生用	120,000部
	中・高校生用	150,000部
③ 公園めぐり		40,000部

(カ) 国内原爆展の開催（決算額：16万3千円）

令和3年度は、東京オリンピック・パラリンピックに合わせた「ヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展」を開催するため、本原爆展の開催は休止し、令和4年度の国内原爆展開催に向けて、開催候補地との協議や会場下見などを行った。

(ク) 原爆展・平和学習用資料の普及・活用（決算額：87万円）

被爆の実相を伝え、平和意識の高揚を図るため、国内の学校や各種平和団体、自治体等へ原爆展・平和学習用資料の貸出しを行った。

貸出資料	点数
DVD等映像資料	510点
市民が描いた原爆の絵（複製）、ポスター、絵本セット等	421
計	931

(ヌ) 英語で伝えようヒロシマセミナー（決算額：76万4千円）

原爆被害に関する知識と英語による表現方法を学習したい人に向けた自主学習用の英語教材を新たに作成した。また、その学習内容を実践的に練習するセミナーを開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、オンラインセミナーに変更して行った。

区 分	期 日	延参加人数
第1回	令和3年8月22日(日)	99人
第2回	令和4年3月12日(土)	101

(セ) 被爆体験伝承者による伝承講話の実施（決算額：390万9千円）

広島平和記念資料館において、来館者等を対象に、事前予約不要かつ無料で定時開催する被爆体験伝承者による講話は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、大部分を中止した。

学校等からの依頼に対しては、市内の会場に無料で被爆体験伝承者を派遣し、伝承講話を行った。また、新型コロナウイルス感染症拡大のため、ウェブ会議システムを利用した講話を実施した。

区 分	件 数	参 加 人 数
日本語での講話	423件	18,361人
英語での講話	8	166
計	431	18,527

(ソ) 平和記念資料館収蔵資料の保存措置の強化（決算額：1,567万7千円）

- a 実物資料の活用を重視している広島平和記念資料館本館の展示（被爆資料）について、展示による資料の劣化を防止するとともに、収蔵資料の活用を図るため、資料の入替を実施した。

また、所蔵フィルムのデジタルデータ化、貸出し用被爆資料としての「腕時計」のレプリカ作製、気密性の高い展示ケースの制作など必要な措置を講じるとともに、収蔵庫や展示室の環境調査を行い、改善を図った。

貴重なフィルム原板の一部については、長期保存・管理に適した施設に管理を委託した。

- b 被爆者証言ビデオについては、国内外に広く発信するため、デジタル化を推進するとともに、テキストデータ化・多言語化（日本語・英語字幕挿入）を進め、順次ホームページでの公開や YouTube での配信を行った。

(タ) 被爆資料の収集等の強化（決算額：13万3千円）

a 被爆資料の収集の強化

被爆者やその遺族を訪問し、資料の寄贈を受けるとともに、被爆状況の聴き取りを行った。

また、国内外から受領・収集した資料等について、資料の精査及び調査・分析を行った。

- ・令和3年度の寄贈件数：50件

b 海外博物館とのネットワークの強化

オーストラリアでの「ヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展」（P21(カ)参照）の開催に合わせて、平和をテーマとした博物館等を訪問し、今後の連携の可能性について協議を行う予定であったが、世界的な新型コロナウイルス感染症拡大の影響により訪問は中止し、次のとおり海外博物館とのネットワークを強化した。

- ① 戦艦ミズーリ記念館（米国・ホノルル市）と共同で戦争の記憶の継承や平和を築く人材の育成等に関するオンラインセミナーを実施
- ② 全米日系人博物館（米国・ロサンゼルス市）の職員を講師に迎え、日系アメリカ人の歴史等に関するオンラインセミナーを実施
- ③ ヤド・ヴァシェム※（イスラエル・エルサレム市）と当館でオンラインセミナー（情報交換等）を実施
 - ※ ナチス・ドイツによるユダヤ人大量虐殺（ホロコースト）の犠牲者たちを慰霊するための国立記念館
- ④ 国立アウシュヴィッツ博物館（ポーランド・オシフィエンチム市）のガイドを講師に迎え、アウシュヴィッツ強制収容所の歴史継承等に関するオンラインセミナーを実施
- ⑤ 米国の核実験博物館（米国・ラスベガス市）と共同で「海外へのオンライン被爆体験証言」（P20(エ)）の一環として在米市民向けの被爆体験証言を実施

(フ) 平和記念資料館ボランティアスタッフ活動支援事業（決算額：174万6千円）

広島平和記念資料館の各種事業に携わるボランティアスタッフ等の資質の向上を図ることにより、来館者に被爆の実相等を正確かつ効果的に伝えるため、体系的な研修を一元的かつ継続的に実施した。

- ・対象：被爆体験証言者、ヒロシマ・ピース・ボランティア、平和学習講座講師、被爆体験伝承者など
- ・内容：総合研修（7回）、英語研修（160回）、パソコン研修（2回）
- ・参加者：延べ789人

(ツ) 広島平和記念資料館の企画展の実施（決算額：264万3千円）

常設展示を補完するとともに、再来館の動機づけとするため、また、未公開資料の活用及び資料館の調査・研究成果発表の機会とするため、企画展を年2回開催した。

【第1回】

- ・テーマ：「焼け跡もの語り」
- ・期間：令和3年10月1日（金）～令和4年2月13日（日）

【第2回】

- ・テーマ：「原爆と医療—救護活動から医学調査へ—」
- ・期間：令和4年3月25日（金）～令和4年9月12日（月）（予定）

(テ) ユースピースボランティア事業（決算額：17万3千円）

次代を担う広島の青少年自らが、平和の大切さを学ぶとともに、海外からの訪問者にヒロシマの心を伝える機会を提供するため、平和記念公園を訪れる外国人に対して被爆の実相を英語で伝えるボランティアガイドを育成し、その活動を支援した。

- ・ボランティア登録者数：48人（高校生26人、大学生22人）
- ・活動実績

- ① 継続生を対象としたガイド時の英語表現に関する研修：2回
- ② 被爆の実相や異文化理解に関する講義等の事前研修：4回
- ③ 平和記念公園を訪れる外国人へのガイド活動：3回
- ④ オンラインによるグループ活動（SNS記事作成等）：2回

※ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、事前研修のうち、被爆の実相に関する講義とピースボランティアによる平和記念公園

ガイドを除き、オンライン研修とした。

(ト) 東京オリンピック・パラリンピックに合わせたヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展の開催 (決算額：400万9千円)

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に合わせて、被爆の実相を伝え、核兵器廃絶の国際世論を醸成するため、東京都内及びその近郊において原爆・平和展を開催した。

【埼玉県飯能市】

- ・期 間：令和3年7月18日（日）～9月5日（日）
- ・場 所：飯能市立博物館
- ・来場者数：7,550人

【東京都文京区】

- ・期 間：令和3年7月26日（月）～7月30日（金）
- ・場 所：文京シビックセンター
- ・来場者数：1,703人

【東京都千代田区】

- ・期 間：令和3年8月3日（火）～8月13日（金）
- ・場 所：千代田区役所
- ・来場者数：210人

(ナ) 平和・戦争に関する博物館等とのネットワーク (決算額：0円)

国内の平和・戦争に関する博物館等が毎年開催する日本平和博物館会議は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、広島平和記念資料館での開催を中止し、書面及びオンラインにより資料・情報交換を行った。

- ・開催日：令和3年11月1日（月）
- ・参加施設数及び参加人数：9施設、25名

(ニ) 展示・収蔵資料等の調査研究 (決算額：138万2千円)

広島平和記念資料館資料調査研究会の会員が、常設展示や企画展の充実に資するための基礎的データを蓄積し、博物館機能の強化を図るため、展示環境の調査及び改善等の提案、原爆の放射線などについて、調査研究を行った。

- ・調査・研究テーマ：6件

「長崎の残留放射線の測定とDS02との比較及び広島・長崎の原爆の

爆発威力の評価について」、「本館の展示環境のモニタリング調査」、「被爆資料の3Dデータ取得による3DCG及び形状複製物の制作」など

イ 平和意識高揚事業

(ア) ジュニア向け平和学習用教材の作成（決算額：58万円）

広島平和記念資料館見学の事前学習や、学校・家庭等での平和教育用に、小学校低学年向けの分かりやすい平和学習用教材の素案を作成した。

(イ) ひろしま子ども平和の集い（決算額：61万8千円）

若い世代の平和意識の高揚と主体的な取組の促進を図るため、平和記念式典への参列等を目的に広島を訪れる青少年と広島の青少年が、平和へのメッセージの発表や意見交換を行うイベントを開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止した。

<代替事業>

広島市内外の青少年から平和への思いを込めたメッセージを集め、「子どもたちの平和のメッセージ展」として平和記念公園内に展示した。

- ・期 日：令和3年8月6日(金)
- ・場 所：平和記念公園（平和記念資料館本館下ピロティ）
- ・参加団体数：59団体

(ウ) こどもたちの平和文化活動支援事業（決算額：103万6千円）

小・中学生による多様な平和文化活動を奨励し、その活動を活性化させることにより、子どもたちの平和意識の高揚を図った。

- ・参加者数：6,517人
- ・内 容：平和文化活動（絵画、習字、作文、俳句、標語、工作など）
を行った学校からの申請により、参加者全員に記念品を贈呈する。

(エ) スポーツを通じた平和意識の醸成（決算額：10万円）

広島東洋カープやサンフレッチェ広島など広島のプロスポーツチームの試合の場を活用して、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けたメッセージを発信し、市民の平和意識の高揚を図った。

a ピースナイターの開催

- ・時 期：令和3年8月21日（土）
- ・場 所：MAZDA ZOOM-ZOOM スタジアム広島（広島市民球場）
- ・内 容：① 大型ビジョンでの市長等のビデオメッセージ放映
② 広島東洋カープの監督、選手等のユニフォームへのピースワッペンの装着

b ピースマッチにおけるピースアクティビティへの支援

- ・時 期：令和3年9月5日（日）
- ・場 所：エディオンスタジアム広島
- ・内 容：① 大型ビジョンでの市長等のビデオメッセージ放映
② 場外ブースでの被爆の実相展示、平和宣言の配布など

(オ) 平和文化の振興（決算額：451万8千円）

広島市が毎年11月を平和文化月間と定めたことを受け、様々な機関や団体との連携のもと、多様なイベントを通じて「平和」への思いの共有につながる「文化」の振興を図った。

- ・時 期：令和3年11月
- ・場 所：平和記念資料館、国際会議場など
- ・内 容：① オープニングイベント「平和文化講演会」
② 市民平和文化イベント～つなぐ平和への思い、未来へ～
（若い世代を中心としたステージ発表や展示発表）
③ 被爆ピアノコンサート～被爆ピアノと奏でる平和の調べ～
（オンライン配信）
④ PEACE キッズキャンパス（児童向け芸術ワークショップ）
⑤ みんなで伝え合おう～ヒロシマ・ナガサキ～広島の会 2021
（朗読を中心に広島・長崎の被爆者の思いを伝える、市民団体との共催事業）など

(カ) 機関紙の発行等（決算額：335万7千円）

a 本財団が行う平和や国際交流・協力への取組を紹介するため、和文・英文機関紙を発行するとともに、事業報告「平和と交流 2021年版（令和2年度事業）」を作成し、ホームページに掲載した。

- ・内 容：和文機関紙 2回 各5,000部
英文機関紙 2回 各2,000部

- b 本財団の活動に関する情報等をインターネットを活用して適宜提供した。
- ・ホームページアクセス件数：152,693件

(キ) 平和宣言の発信（決算額：161万1千円）

核兵器廃絶に向けた国際世論を醸成し、核保有国の政策変更につなげるため、平和宣言を国内外に発信した。

- ・内 容：① 平和宣言文パネル(和文、英文)の作成、掲示
- ② 平和宣言読み上げの動画の作成及び広島市ホームページでの発信（日本語、英語）
- ③ 外国語8か国語（スペイン語、フランス語、ロシア語、中国語、アラビア語、ドイツ語、ハンガール語、ポルトガル語）による平和宣言文の作成及び広島市ホームページでの発信
- ④ 平和宣言文の作成、配付及び送付
（和文：9,000部、英文：3,000部、和英文：2,600部、点字：200部）

(ク) 広島平和記念資料館ホームページ及びデータベースの管理・運用（決算額：1,270万4千円）

a 広島平和記念資料館ホームページ

核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を世界に訴え、国際世論を醸成していくため、広島平和記念資料館のホームページで、原爆・平和に関する情報を発信した。

- ・アクセス件数：830,438件
- ・内 容：資料館の利用案内、展示内容の紹介、平和宣言の発信等

b データベース

原爆・平和に関する資料をデータベース化して管理し、一部をインターネットで公開するとともに、令和4年2月1日にデータベースのリニューアルを行った。

- ・公開件数：98,800件
- ・内 容：資料館が所蔵・管理する被爆資料、写真、絵、動画など

(ケ) 情報資料室の管理運営（決算額：252万7千円）

平和文化の普及・高揚と被爆体験の継承を図るための調査・研究の場として、原爆・平和に関する資料・情報の収集・保存を行い、市民等の閲覧に供

した。

- ・利用者数：3,747人

- ・資料展の開催

テーマ：「原爆ドームの軌跡 世界遺産登録から25年」

期 間：令和3年10月22日(金)～令和4年3月31日(木)

ウ 国際平和推進事業

(ア) 国際平和シンポジウムの開催（決算額：220万6千円）

市民の平和意識の高揚と国内外への平和メッセージの発信を目的に、朝日新聞社との共催により、広島市と長崎市で隔年交互に同シンポジウムを開催しており、令和3年度は広島市で開催した。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、一般傍聴者は募らずライブ配信した。

- ・時 期：令和3年7月31日(土)

- ・場 所：広島国際会議場

(イ) 国連軍縮フェローズの受入れ（決算額：1万1千円）

国連が軍縮専門家の育成を目的に主催する「国連軍縮フェローシップ・プログラム」を支援するため、各国外交官等の研修生（フェローズ）を受け入れ、被爆の実相等について理解を深めてもらう研修を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により受入れは中止し、外務省・長崎市と合同でオンラインの研修を実施した。

(ロ) 中国人民平和軍縮協会との交流（決算額：0円）

中国の平和・軍縮分野のNGOである中国人民平和軍縮協会との交流を深めるため、同協会からの代表団を受け入れ、被爆の実相とともに、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を願う「ヒロシマの心」を伝える予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止した。

(ハ) 海外へのオンライン被爆体験証言（決算額：50万1千円）

海外の人々に被爆の実相を伝え、核兵器廃絶に向けた国際世論を醸成するため、ウェブ会議システムによる被爆体験証言を行った。

- ・実施回数：10か国19都市・27回

- ・聴講者数：1,181人

(オ) 国外原爆写真展用資料の提供（決算額：127万6千円）

被爆の実相を伝え、平和意識の高揚を図るため、原爆展の開催や平和学習の実施に取り組む世界各地の自治体、NGO、学校、個人等に対し、ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスター及び映像資料等の貸出・提供を行った。

なお、ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスターの内容を更新し、新たに作成した。

[ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスターの貸出・提供]

区 分	点数	国・地域数
英語版※	2点	8か国
フランス語版※	1	7
ポルトガル語版	1	1
ロシア語版	1	1
計	5	17

※ 英語版1点及びフランス語版1点については、それぞれ7か国で巡回展示

[映像資料等の貸出・提供]

区 分	点 数	国・地域数
映像資料（DVD）	10点	3か国
ポスター用データ等	6	3
計	16	6

(カ) ヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展の開催（決算額：778万9千円）

a ヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展

被爆の実相を伝え、核兵器廃絶に向けた国際世論を醸成するため、海外の主要都市において原爆・平和展を開催した。

[オーストラリア・シドニー市]

- ・期 間：令和3年5月21日(金)～令和3年8月29日(日)
- ・場 所：オーストラリア国立海洋博物館
- ・内 容：被爆の実相を伝える写真パネル・被爆資料等の展示、被爆体験講話、被爆者証言ビデオの上映、被爆体験記の閲覧等
- ・入場者：約16,700人

※ オーストラリア・フリマントル市での開催は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止

b NPT再検討会議にあわせた原爆展

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、NPT再検討会議は開催直前で延期されたが、日本原水爆被害者団体協議会との共催により、米国・ニューヨーク市で原爆展を開催した。

- ・ 期 間：令和3年12月13日(月)～令和4年1月12日(水)
- ・ 場 所：国連本部1階ロビー
- ・ 内 容：被爆の実相を伝える写真パネル・被爆資料等の展示等

(キ) 「広島・長崎講座」設置協カプログラム（決算額：5万6千円）

被爆の実相や被爆者の核兵器廃絶への願いを若い世代に継承するため、国内外の大学・大学院の講座で、広島及び長崎における被爆体験の持つ意味を学術的に考察・検証し、伝えるものを「広島・長崎講座」として認定するとともに、その普及を図った。

また、広島で平和学習を実施した大学に対して、被爆体験証言聴講の機会を提供し、講師への謝礼金を負担するなど、講座の充実に向けた協力を行った。

- ・ 認定大学数：国内51大学、国外24大学（令和4年3月31日現在）

(ク) 国連見学ツアーガイド等のヒロシマ研修（決算額：79万1千円）

常設の原爆展を開設している国連の見学ツアーガイド等を広島に招へいし、被爆の実相を理解するための研修を実施するとともに、被爆体験証言者及び職員を国連に派遣し、より多くのツアーガイドの研修を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により招へい・派遣は中止し、研修プログラムの一部をオンラインで実施した。

- ・ 実施日：令和3年11月30日(火)、12月1日(水)・2日(木)・3日(金)
- ・ 内 容：① 広島平和記念資料館バーチャルツアー
② 被爆体験講話
③ 広島市立大学広島平和研究所教授による講義
- ・ 受講者：延べ93人

(ケ) 平和首長会議の運営（決算額：719万4千円）

加盟要請や加盟都市間の情報共有等の平和首長会議の運営を通じて、核兵

器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた国際世論の醸成を図った。

- ・内 容：① 未加盟都市への加盟要請
 - ② 加盟都市の活動情報の収集及びホームページやソーシャルメディアでの公表
 - ③ 加盟都市への広島市・長崎市の平和宣言文の送付
 - ④ 月刊メールマガジンの発行
 - ⑤ 平和首長会議情報システムの運用保守 等
- （平和首長会議加盟都市数：166か国・地域8,065都市）
（令和4年3月1日現在）

(2) 平和首長会議の活動展開（決算額：2,457万円）

平和首長会議加盟都市の市民、NGO等と連携して世界恒久平和の実現を目指すため、平和首長会議行動計画に基づき、世界的な活動展開を図った。

a 第10回NPT再検討会議への出席

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により令和4年8月（予定）に延期した。

b 核兵器禁止条約締約国会議への出席

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により令和4年6月（予定）に延期した。

c 第10回平和首長会議国内加盟都市会議総会の開催

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により令和4年10月に延期した。

d 「核兵器禁止条約」の早期締結を求める署名活動の展開

区役所等へ署名箱を設置するとともに、平和首長会議ホームページやソーシャルメディアを通じて署名の呼び掛けを行った。

・署名数：3,143,607筆（令和4年3月1日現在）

e 平和首長会議加盟都市への被爆樹木の種・苗木の配付

被爆樹木の種・苗木の配付、説明標識の配付等を行った。

・配付実績：（国内）14都市

（海外）5か国・10都市

f 次代を担う青少年を中心とした市民の平和意識の啓発

平和首長会議加盟都市による「平和を希求する心を育てる取組」の好事

例をメールマガジンやホームページで紹介するとともに、子どもたちによる“平和なまち”絵画コンテストを実施した。

[子どもたちによる“平和なまち”絵画コンテスト2021]

- ・募集時期：令和3年4月12日(月)～11月1日(月)
- ・参加国数・都市数：18か国105都市
- ・応募総数：4,166点

(6歳～10歳の部：2,303点
11歳～15歳の部：1,863点)

g 第89回全米市長会議年次総会への出席

新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりオンライン開催となったため、平和首長会議代表団の派遣は中止し、専門委員のみ参加した。

会議では、核兵器廃絶と平和首長会議の取組を支持する決議文が満場一致で採択され、16年連続となった。

- ・会期：令和3年8月31日(火)

h 海外加盟都市関係者の受入れ

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により受入れを中止した。

(ウ) 平和首長会議インターンシップ (決算額：1万7千円)

平和首長会議の加盟都市から若手職員等をインターンとして広島に招へいし、平和首長会議の取組に対する理解を深めてもらうことにより、各加盟都市との連携強化を図る予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止した。

(エ) 青少年「平和と交流」支援事業 (決算額：55万7千円)

加盟都市等における青少年の平和活動の活性化を図るため、8か国の青少年の参加を得て平和教育ウェビナー「世界の青少年による平和活動交流会」を開催し、YouTubeでライブ配信した。

- ・期日：令和3年8月26日(木)

(オ) 第10回平和首長会議総会の開催 (決算額：115万7千円)

平和首長会議が加盟都市やその市民、NGO等と連携しながら核兵器のない平和な未来を創造するために何をしていくべきかについて、各加盟都市代表が一堂に会して審議し、令和3年以降の新たなビジョン及び行動計画を策

定する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和4年10月に延期した。

<第12回平和首長会議理事会>

新ビジョン及び行動計画の策定は先延ばしにできないため、18の役員都市代表の参加を得てオンラインで理事会を開催し、新ビジョン「持続可能な世界に向けた平和的な変革のためのビジョン（略称：PXビジョン）」及び「平和首長会議行動計画（2021年－2025年）」を策定した。

・期日：令和3年7月7日（水）

エ 施設の管理運営

(7) 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の管理運営（決算額：2億8,233万円）

厚生労働省からの受託事業として、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底したうえで、追悼平和祈念館の管理運営を行った。

・入館者数：62,058人

（平成14年8月の開館以降の入館者数：4,724,289人）

※ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響による臨時休館

① 令和3年5月10日～6月20日（42日間）

② 令和3年8月7日～9月30日（55日間）

③ 令和4年1月9日～3月6日（57日間）（計154日間）

a 原爆死没者の氏名・遺影の登録・公開

原爆死没者の氏名・遺影を登録し、館内で公開した。

・原爆死没者氏名・遺影の登録状況（令和4年3月31日現在）

氏名・遺影	氏名のみ	計
22,315人	2,877人	25,192人

b 被爆体験記の収集・整理・公開

被爆体験記を収集・整理（データベース化）し、館内で公開した。

・被爆体験記の収集・整理状況（令和4年3月31日現在）

区 分	収集数	整理数	進捗率
厚生省収集分被爆体験記 (H7)	81,204 編	81,204 編	100.0%
厚生労働省収集分被爆体験記 (H17)	11,778	11,778	100.0
厚生労働省収集分被爆体験記 (H27)	11,333	6,196	54.7
独自収集分被爆体験記	3,487	3,487	100.0
図書（被爆体験記集等）	(5,539 冊)	40,532 (2,988 冊)	(53.9)
計	—	143,197	—

(注) 1 厚生省・厚生労働省収集分被爆体験記：厚生省（当時）・厚生労働省が各年度に実施した「原子爆弾被爆者実態調査」に併せて収集した被爆体験記をいう。

2 独自収集分被爆体験記：平成9年度以降、独自に収集した被爆体験記をいう。

c 企画展の開催

被爆の実相をわかりやすく伝えるため、企画展を開催した。

企画展のテーマに沿って、所蔵する被爆体験記や追悼記を選び出し、タッチスクリーンの端末により多言語（日・英・中・韓）で紹介するとともに、約30分の映像作品を制作し、館内で上映した。この映像作品は、ホームページで公開するとともに、平和学習資料（DVD）として貸出しを行った。

① テーマ「わが命つきるともー神父たちのヒロシマと復活への道ー」

- ・期 間：令和3年3月1日(月)～令和4年2月28日(月)
- ・内 容：被爆当日、イエズス会の轍町教会（爆心地から約1.2キロ）にいた4人の外国人神父たちの被爆後の状況を克明に描いた体験記等を通して、ヒロシマの復活への道をたどる。

② テーマ「震えるまなざしー撮影者たちが残したことばー」

- ・期 間：令和4年3月1日(火)～令和4年12月29日(木)
- ・内 容：軍所属のカメラマン、写真店の店主、新聞社に勤務する

中学生等、全く異なる職業や立場の撮影者たちが、目をそらしたくなる気持ちを押し殺しながら、ファインダーに映る被爆後の悲惨な状況をいかにしてフィルムに収めたのか。そしてその体験を、彼らの鋭い描写力でどのようにことばに表したかを明らかにする。（実際にキノコ雲を写したカメラを展示）

d 被爆者証言ビデオの制作

被爆の実相を国内外の次の世代に継承するため、広島県外在住被爆者の証言映像を収録し、保存するとともに、館内やインターネット上で公開した。

・県外在住被爆者収録者数：21人

（山口県1人、鳥取県3人、愛媛県4人、岡山県5人、大阪府1人、千葉県3人、東京都4人）

e 被爆体験記の朗読事業

(a) 若い世代へ被爆体験を継承するため、修学旅行などで広島を訪れた児童生徒を対象に被爆体験記（原爆詩を含む。）の朗読会を開催した。

また、広島市内の学校等へ出向く出前朗読会や、来館者が予約なしで参加できる定期朗読会も開催した。

・朗読会開催回数：61回

※ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響による臨時休館中は休止

(b) 独自での朗読会を希望する団体等へは、朗読セットの貸出しを行った。

・朗読セット貸出件数：15件

f 広島平和学習セミナーの開催

平和学習を目的として多くの修学旅行生に来館してもらうため、広島市と広島市教育委員会が共同で行う「平和学習講習会」において、学校関係者等に対し、伝承講話・朗読会の実演を行うなど被爆体験継承の取組を説明する予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりリモート開催となった。

g 被爆体験記執筆補助

高齢などにより一人では執筆が困難な被爆者を対象に、被爆体験の聞き取りや代筆を行い、被爆体験記の収集数の増加を図った。

- ・聞き取り人数：9人（広島県内在住の被爆者を対象に公募）

h 多言語化対応事業

海外から来館する多くの人に、被爆の実相を母国語で伝えるため、被爆者証言ビデオの翻訳字幕の作成、被爆体験記の翻訳を行った。

- ・証言ビデオ

翻訳字幕作成本数：14言語26本〔累計：24言語1, 324本〕

- ・被爆体験記

翻訳編数：4言語71編〔累計：24言語1, 320編〕

※ リーフレットについては現在21言語を作成

i 被爆体験伝承者等派遣・語学研修

次世代へ被爆体験を伝承するため、被爆体験証言者、被爆体験伝承者、被爆体験記朗読ボランティアを市外に派遣した。

- ・証言講話実施回数：9回
- ・伝承講話実施回数：186回
- ・朗読会実施回数：8回

※ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響による臨時休館中は休止

j インターネットによる情報提供

追悼平和祈念館の事業内容をホームページで紹介するとともに、保有する被爆体験記及び被爆者証言ビデオを掲載して広く情報提供し、被爆の実相を伝えた。

- ・アクセス件数：祈念館ホームページ 623, 182件
平和情報ネットワーク 5, 360, 976件

k 情報展示システムの保守・管理

来館者へのサービス向上及びシステムの安全性・信頼性の確保を図るため、情報展示システムの保守・管理を行った。

また、令和5年度の情報展示システム機器更改に向けて調査研究を行う

とともに、情報展示コーナーの実施設計を行った。

Ⅰ 施設の管理等

空調設備の大規模修繕や照明のLED化など、各種設備機器の保守管理をはじめとする施設の管理運営を行った。

(イ) 広島平和記念資料館の管理運営（決算額：3億1,348万7千円）

平成30年度から4年間、広島市から指定管理者の指定を受けており、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底したうえで、施設及び設備機器の管理運営を行った。

・入館者数

区 分	入館者数	内 訳	
		個 人	団 体
大 人	207,706 人	190,200 人	17,506 人
小 人	198,281	37,525	160,756
計	405,987	227,725	178,262

※ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響による臨時休館

- ① 令和3年5月10日～6月20日（42日間）
- ② 令和3年8月7日～9月30日（55日間）
- ③ 令和4年1月13日～3月6日（53日間）（計150日間）

・「新着資料展」の開催

新たに寄贈された資料を紹介するため、新着資料展を開催した。

期 間：令和4年3月17日(木)～令和5年1月(予定)

場 所：東館地下1階 特別展示室

(ウ) 広島平和都市記念碑（原爆死没者慰霊碑）の維持管理（決算額：14万1千円）

(2) 公益目的事業2（国際交流・協力事業）

ア 国際交流・協力推進事業

(7) 国際交流・協力事業への助成（決算額：30万9千円）

市民レベルの多文化共生及び国際交流・協力の推進を図るため、広島市内

で活動している市民団体が自主的に企画・実施する国際交流・協力事業や多文化共生事業に対して、次のとおり助成を行った。

区 分		助成団体数
市内事業	広島市内で行う多文化共生、国際交流・国際協力の推進を目的とする事業	5 団体
国外事業	外国で行う国際交流・国際協力の推進に関する事業	—

(イ) 国際交流ネットワークひろしまの運営（決算額：147万6千円）

広島市内の国際交流・協力活動団体等で構成する国際交流ネットワークひろしまを運営し、加入団体が活動しやすい環境づくりを進めた。

また、国際交流・協力課のホームページを活用し、加入団体の活動情報等を発信した。

- ・内 容：加入団体への情報提供、研修室・ボランティア活動コーナーの貸出し等
- ・加入団体数：152 団体（令和4年3月31日現在）
- ・ホームページアクセス件数：177, 158 件

(ウ) 国際フェスタの開催（決算額：221万8千円）

広島市内の国際交流・協力活動団体間の交流を促進するとともに、市民の関心を高めるため、「第22回国際フェスタ2021」を開催した。

- ・期 日：令和3年11月20日(土)、21日(日)
- ・場 所：広島国際会議場
- ・内 容：新型コロナウイルス感染拡大の影響により、文化体験コーナーやバザー等を中止するなど、昨年度に引き続き例年よりも規模を大幅に縮小し、オンライン配信を併用して次のとおり実施した。

① JICA 中国との共催講演会（対面及びオンライン配信併用）

「ざんねんでも、大好きな動物たち ～ASA ZOO（安佐動物公園）50周年に考える～」

② 広島市姉妹・友好都市紹介事業（対面及びオンライン配信併用）

「姉妹・友好都市をめぐるバーチャル世界一周 ～ヒロシ

マ・メッセンジャーがご案内します！～」

③ 「ボルゴグラードの日」特別企画（対面及びオンライン配信併用）

「絶滅に抗した町 ～スターリングラード戦の歴史的意味～」

④ J I C A 中国（オンライン配信）

「地球ひろば」

〈第一部〉体は自宅、でも心は外国！ワールドツアーへようこそ

〈第二部〉覗いてみよう「アディンクラシンボル」の世界

⑤ 講演、発表会（オンライン配信 6 事業）

⑥ 外国人市民を対象とした日本文化体験事業（対面 4 事業）

- ・主 催：本財団（国際交流・協力課、国際会議場）
- ・共 催：独立行政法人国際協力機構中国センター、広島市
- ・参加団体：13 団体
- ・入場者数：延べ約 480 人

(I) 「姉妹・友好都市の日」の開催及び「ヒロシマ・メッセンジャー」の運営（決算額：118 万 2 千円）

a 姉妹・友好都市の日「記念イベント」の開催

広島市が海外の 6 つの姉妹・友好都市ごとに設定した「姉妹・友好都市の日」に、市民参加型の記念イベントを開催し、市民交流の一層の拡大と国際意識の高揚を図る予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、6 都市すべての記念イベントを中止した。

<代替事業>

「第 22 回国際フェスタ 2021」において、ヒロシマ・メッセンジャーによる広島市の姉妹・友好都市 6 都市の紹介を行った。

・期 日：11 月 21 日(日)

b 「ヒロシマ・メッセンジャー」の募集・選考

「姉妹・友好都市の日」記念イベントの企画・立案・進行を担当するほか、学校の国際理解学習の講師等として活動する「ヒロシマ・メッセンジャー」を募集・選考した。

- ・募集期間：令和 3 年 10 月 1 日(金)～10 月 31 日(日)
- ・選考人数：姉妹・友好都市ごとに 2 人、計 12 人
- ・任 期：令和 4 年 1 月～12 月

イ 国際化推進事業

(ア) 国際交流員による国際交流事業の実施（決算額：1千円）

a 地域レベルでの国際交流・国際理解を促進するため、学校や広島市の関係機関が実施する国際交流・国際理解事業に国際交流員（8月以降は国際交流専門員。以下同じ。）を派遣した。

・派遣回数：18回

b 国際交流員が市民からの質問や相談に応じる「国際交流員の相談日『Have a Natter!』」（8月からは「国際交流専門員の相談日『Have a Chat!』」）を、対面及びオンラインで開催した。

・実施回数：16回（対面6回、オンライン10回）

・参加人数：延べ53人（対面延べ26人、オンライン延べ27人）

(イ) 情報誌の発行（決算額：9万3千円）

外国人市民のための生活・文化情報誌「HIRO CLUB NEWS」を作成・配布し、広島での生活に役立ててもらった。また、これらの情報をインターネットでも提供した。

・発行数

① 英語版（月2回発行）

1回当たり約100部（1日号約20ページ、15日号3ページ程度）

② 中国語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語版（月1回発行）

1回当たり各言語約50部（約15ページ）

・配布先：県内国際交流団体、日本語教室、広島市関係機関等

(ウ) 国際交流・協力団体との連携（決算額：18万円）

広島地域の国際交流・協力事業の連携・調整を図るため、公益財団法人ひろしま国際センター等関係機関との連絡会議や地域国際化協会の研修会等に参加するとともに、二国間団体の運営に対する助言などを行った。

(エ) 通訳ボランティアの研修・派遣事業（決算額：9万5千円）

日本語で円滑にコミュニケーションすることができない市民の生活を支援するため、通訳ボランティアを募集・登録し、必要な研修を行うとともに、

要請に応じて保育園や学校などに派遣した。

- ・派遣件数：25件
- ・派遣人数：延べ26人

[研修会]

区分	期日・形式	内容等
第1回	期日：令和4年2月27日(日) 形式：オンライン	内容：語学研修（英語） 参加人数：18人
第2回	期日：令和4年3月6日(日) 形式：オンライン	内容：多文化社会のコミュニティ通訳 ～双方向のコミュニケーション のためのことば～ 参加人数：11人

(オ) 外国人市民の総合相談窓口事業（決算額：2,124万2千円）

日本語で円滑にコミュニケーションすることができない市民のために、多言語で対応できる相談窓口を開設し、対面や電話での生活支援相談、生活関連情報の翻訳・提供、行政機関等への同行、電話による通訳などを行った。

令和3年度からは、広島広域都市圏における新たな連携事業として、相談の対象を安芸郡4町（府中町、海田町、熊野町、坂町）に拡大し、「広島市・安芸郡外国人相談窓口」として4町と共同運営するとともに、新たにフィリピン語の相談日を週1回設けた。

また、ウェブサイトを活用して8言語で生活関連情報の発信を行うとともに、相談窓口において広島出入国在留管理局職員による在留資格等に関する専門相談を月1回（第2金曜日）実施した。

- ・対応件数：1,518件（相談：655件、通訳465件、翻訳398件）

a 相談窓口

- ・対応言語：中国語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語、英語、フィリピン語

※ その他の言語については、翻訳タブレット等で対応

- ・開設場所：国際会議場3階国際交流・協力課内

（令和3年8月9日までは国際会議場1階国際交流ラウンジ）

- ・開設日時：月曜日から金曜日（祝日・年末年始・8月6日を除く）

午前9時～午後4時

b 巡回相談

- ・安芸区役所区政調整課内：月2回（第2水曜日（ポルトガル語）、第3木曜日（スペイン語））
- ・市営住宅基町管理事務所内：月1回（第2火曜日（中国語））

(カ) 外国人市民の日本語能力向上支援事業（決算額：525万円）

外国人市民の日本語能力向上のための日本語講座等を開催するとともに、地域の日本語教室を担うボランティアの育成やスキル向上のための講座等を実施した。

a 日本語教育コーディネーターの配置

- ・期間：令和3年4月～令和4年3月

b 入門レベルの日本語講座の開催

(a) 春期講座

- ・期間：令和3年6月4日(金)～8月20日(金)（全20回）
- ・場所・形式：広島国際会議場3階研修室、オンライン
- ・受講人数：延べ133人

(b) 秋期講座

- ・期間：令和3年10月22日(金)～令和4年1月21日(金)（全20回）
- ・場所・形式：広島国際会議場3階研修室、オンライン
- ・受講人数：延べ195人

c 日本の習慣や生活などを理解するための各種研修の開催

(a) はじめての「やさしい日本語」講座

- ・期日：令和3年7月31日(土)、令和4年2月27日(日)
- ・場所：可部公民館、オンライン（三篠公民館と共催）
- ・受講人数：延べ49人

(b) 外国人市民のための安全教室

- ・期日：令和3年7月12日(月)、12月17日(金)
- ・場所：広島県警察本部
- ・内容：交通ルールの講習、110番通信指令室の見学等

- ・受講人数：延べ26人

(c) 文化理解講座

- ・期 日：令和3年10月31日(日)
- ・場 所：己斐公民館
- ・内 容：水引をつかったアクセサリー・小物づくり
- ・受講人数：30人

d 日本語ボランティア養成講座（Ⅰ～Ⅲ）の開催

- ・期 間：令和3年6月15日(火)～12月7日(火)（全19回）
- ・場 所：広島国際会議場3階研修室、オンライン
- ・内 容：① 養成講座Ⅰ
「外国人市民による日本語学習体験談、日本語教室の紹介、ボランティアの心構え、やさしい日本語等」
② 養成講座Ⅱ（経験3年未満のボランティア対象）
「外国人市民による日本語学習体験談、日本語ボランティア活動に必要な文法学習」
③ 養成講座Ⅲ（経験3年以上のボランティア対象）
「外国人市民による日本語学習体験談、日本語ボランティア活動に必要な文法学習」
- ・受講人数：延べ346人

e 企業等の従業員のための日本語教室（モニター）

(a) 株式会社不二ビルサービス

- ・期 間：令和3年8月10日(火)～10月19日(火)
- ・場 所：株式会社不二ビルサービス 会議室
- ・内 容：① 外国人従業員向け日本語教室（全10回）
受講人数：延べ97人
② 日本人従業員向け「やさしい日本語」教室（1回）
受講人数：19人

(b) 株式会社ニシキンテック

- ・期 間：令和3年12月9日(木)～令和4年3月9日(水)
- ・場 所：株式会社ニシキンテック 会議室
- ・内 容：① 外国人従業員向け日本語教室（全10回）

受講人数：延べ59人

② 日本人従業員向け「やさしい日本語」教室（1回）

受講人数：9人

f 広島市日本語教室ネットワーク会議の開催

- ・期 日：令和3年4月27日(火)、令和4年3月8日(火)
- ・場 所：広島国際会議場 3階研修室
- ・参加人数：延べ34名

ウ ひろしま奨学金支給事業（決算額：1,075万3千円）

a ひろしま奨学金の支給

広島市内に居住し、市内の大学・大学院に在籍する私費留学生在が、経済的な問題に影響されることなく、安心して学業に専念できるよう奨学金を支給した。

- ・支給人数：30人
- ・支給金額：30,000円/月×12か月

b 奨学生を対象とした平和学習

奨学生を対象とした平和学習を実施し、被爆の実相や核兵器廃絶に向けた取組を学ぶとともに、ヒロシマを発信する活動を積極的に行ってもらうことにより、「平和」を通じた国際交流の推進を図った。

- ・期 日：令和4年1月8日(土)
- ・場 所：平和記念資料館東館地下1階 会議室2
- ・受講人数：22人

(3) 収益事業等

ア 広島平和記念資料館での収益事業（決算額：3,777万7千円）

(7) 出版・販売事業

原爆・平和関係の図書、グッズ、DVD等を広島平和記念資料館内のミュージアムショップで販売した。

(イ) 常設展示等の解説機器（音声ガイド）の貸出事業

常設展示や遺品等の詳しい解説が聴ける音声ガイドの貸出しを行った。

- ・解説言語：日本語、英語、中国語、韓国・朝鮮語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語、ドイツ語、イタリア語、ロシア語、タイ語、アラビア語、インドネシア語、フィリピン語（14言語）
- ・貸出件数：11,529件

イ 広島国際会議場での収益事業（決算額：496万8千円）

臨時売店等での飲食等の販売、飲料水自動販売機の設置、コピー・ファクスサービス、ケータリングの手配等を行った。

ウ 広島国際会議場の管理運営（決算額：3億4,355万4千円）

令和2年度から5年間、指定管理者の指定を受けており、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底したうえで、施設及び設備機器の管理運営を行った。

※ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響による臨時休館

- ① 令和3年5月8日～6月20日（44日間）
- ② 令和3年8月7日～9月30日（55日間）
- ③ 令和4年1月9日～3月6日（57日間）（計156日間）

[ホール及び会議室の利用状況]

区 分	貸出可能 区分数	利 用 区分数	利用率	利用件数
フェニックスホール	609区分	153区分	25.1%	66件
国際会議ホール（ヒマワリ）	609	120	19.7	75
大会議室（ダリア）	1,218	352	28.9	125
中会議室（コスモス）	1,218	238	19.5	87
小会議室（ラン）	1,218	249	20.4	105
会議運営事務室	609	176	28.9	163
計	5,481	1,288	23.5	621

（注）利用率とは、貸出可能区分数に対する利用区分数の割合。

[国際交流ラウンジの利用状況]

区 分	利用者数	内 訳	
		日本人	外国人
国際交流ラウンジ	12,072 人	10,989 人	1,083 人

※ 国際交流ラウンジは令和4年2月28日をもって閉室(廃止)した。

II 無償使用貸借資産

事業を実施するに当たり、広島市から無償使用貸借している資産は次のとおりである。

建物

(令和4年3月31日現在)

名 称	所 在 地	区分	現 在 高
広島平和記念資料館	中区中島町1番2号	建物	事務室等 698.60 m ²
広島国際会議場	中区中島町1番5号	建物	事務室等 434.54 m ²

III 事業報告の附属明細書

記載すべき事項はない。